



風っ子・環境キャンペーン

高崎市

正しく情報伝え エコ活動進める

高崎市立中居小学校



仕分けが済んだたくさんのおキャップを前にする環境委員会のメンバー

高崎市立中居小学校（中居町）で、エコキャップ集めは長く続いている環境活動のひとつです。同校では、各階の廊下に専用のボックスを用意。特に回収は設けず、児童がいつでも家庭から持ち寄ることができるようになっています。ボックスからエコキャップを集め

るのは、環境委員会の役目。昼休みに当番を決めて、毎日回収します。1学期には45リットルのゴミ袋7袋分のキャップが集まりました。

しかし「仕分けをするといキャップは5袋分。あとの2袋分はダメキャップでした」と委員長の松田龍征さんは残念そうに話します。ダメキャップとは、業者に引き取ってもらえないキャップのこと。ペットボトル以外のキャップや、カビや汚れがついていたりするダメキャップが、なんと2袋分もあったのです。仕分けをするのも大変でした。



慣れてきて仕分けの時間も短くなってきました

これではもったいない上に、効率もよくありません。そこで委員会のメンバーが考えたのは、必要なエコキャップの状態を全校児童に正しく伝えることでした。集めるのは飲み物のペットボトルのキャップだけ、よく洗って乾かしてから持ってきてほしいことをポスターに描いて、校内の目につくところに張り出しました。クラス用のポスターも作り、放送でも呼びかけました。

風っ子・環境キャンペーンを応援します

高崎市立中居小学校

赤尾優校長 591人
高崎市中居町3丁目28番地1
TEL: 027-352-2700
創立 / 1976(昭和51)年
http://swa.city.takasaki.gunma.jp/nakai_sho/

年3回「生活見直し習慣」を実施。チェック表を用いて食事や生活など家庭での習慣を見直し、健康な毎日のきっかけ作りをしています。



地域の人も大勢、協力してくれるんだって。

群馬県のマスコット「ぐんまちゃん」 許諾第29-110989号

身近にできるエコ活動

家庭でたい肥を作ってみましょう。

群馬県は生ごみなど、燃えるごみの排出量が全国一です。家庭から出る生ごみで、たい肥を作ってみませんか。庭に穴を掘り、生ごみと落ち葉を混ぜ、土をかけておくと、土の中の微生物が生ごみを分解し、夏ごろにはたい肥ができます。このたい肥を使うと、野菜や草花が元気に育ちます。土からできた野菜を食べ、残り物をたい肥として土に返す。地球にやさしい、循環型社会を体験してみましょう。

群馬県環境アドバイザー 井上金治